

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2181号

2013年10月07日（月曜日）

## 《 default on its debt 》

交渉の一方の当事者であるバイナ下院議長（野党共和党の交渉担当者）の口から、「default」という単語が聞こえる中での週明けです。「まさかいくらなんでも、アメリカの議会が自国をデフォルトまで追い込む訳はない」という楽観論がある一方で、あと10日を残すだけの中で「交渉の進展」はこの週末もまったく見えない。そういう意味では、「緊張の週明け」だと言える。

バイナ議長の発言を伝えているのはロイターなど。同記事の見出しは「Boehner says U.S. on path to default if Obama won't negotiate」（オバマ大統領が交渉に応じなければ、アメリカはデフォルトに向かっている）というもの。バイナ議長発言は以下の通りだが、アメリカの信用危機、より具体的には「デフォルト」に陥る可能性に具体的に言及する発言が交渉担当者から出たのは初めてだと思う。

「(Reuters) - Republican House Speaker John Boehner vowed on Sunday not to raise the U.S. debt ceiling without a "serious conversation" about what is driving the debt, while Democrats said it was irresponsible and reckless to raise the possibility of a U.S. default.

"The nation's credit is at risk because of the administration's refusal to sit down and have a conversation," Boehner told ABC's "This Week," adding that there were not enough votes in the House of Representatives to pass a "clean" debt limit bill, without any conditions attached.

Asked if that meant the United States was headed towards a default if President Barack Obama did not negotiate ahead of an October 17 deadline to raise the debt ceiling, Boehner said: "That's the path we're on."」

実際のところ、筆者がこの文章を書いている時点では些末な論点以外には交渉はまったくと言って良いほど進展していない。交渉の焦点は、米政府機能の再開に繋がる暫定予算を巡るものと、さらに重要な意味合いを持つ「債務上限の引き上げ」を巡るものとある。前者については「強制的に自宅待機の米連邦職員には、さかのぼって給与が支払われる」とか、米国防総省の文民の大部分については今週から職場復帰すると言った“些末”な進展はあ

る。しかし「オバマケア」を巡る、より具体的にはそのファンディングを巡る議論は全く進展していない。

オバマ大統領など民主党が目指すのは紐付けのない「clean” government spending plan」。一方の共和党は当初は「オバマケアの一年間延期」を求めた。しかしオバマケアがあまりにも前面に出る事を避けるために、「増え続ける財政赤字をどうするのか」という全体的に議論の中に落とし込もうとの意向が見える。例えば「Boehner Shifts to Long-Term Fiscal Challenges」というワシントン・ポストの記事は以下のようになっている。

「WASHINGTON—House Speaker John Boehner said he wouldn't pass a bill to increase the U. S. debt ceiling without addressing longer-term spending and budget challenges, prolonging the standoff with the White House just weeks before the nation is expected to hit its statutory borrowing limit.

Mr. Boehner, speaking on ABC, blamed President Barack Obama for refusing to talk with Republicans, saying the House can't pass a "clean" government spending plan that doesn't address any of the nation's underlying fiscal problems.

"I don't want the United States to default on its debt. But I'm not going to raise the debt limit without a serious conversation about dealing with problems that are driving the debt up. It would be irresponsible of me to do this," Mr. Boehner said.」

この文章で改めてバイナー議長は「default」という単語を使っている。この共和党の姿勢に対する民主党は、「国民の非難は共和党に向いている。今は共和党が降りるのを待つ」というスタンス。民主党とオバマ大統領への非難のトーンを強めている共和党とは、完全に collision course だと言える。

### 《 controlled risk-off 》

この問題に対する市場の対応は、「controlled risk-off」という表現が当たっている。それでも各国市場の関係者のコントロールの具合には程度の差がある。一番楽観的、つまり「まさかそんなことはない」と考えているようなのはニューヨークの市場関係者で、同市場のダウ工業株30種平均株価指数は金曜日の75ドル強の上げもあって、週間で見るとごくわずかな下げにとどまっている。2011年にも同じようなことがあって、慣れていると言え言える。

一方で、筆者の目から見て一番コントロール具合が強くて買いの手を押さえているのは東京市場の関係者のように見える。東京市場関係者が懸念しているのは「円高」だが、実際に外為市場を見るとそれほど一方的に円高が進んでいるわけではない。対ドルでも徐々に円高のレベルを上げてはいるが、先週末の段階では96円台ではなく97円台の半ばとなっている。それ以前の99円台からそれほど大きな円高ではない。また対オーストラリア通

貨を見ると、なお円高の程度は小さい。

しかし「どちらの見方が正しいのか」という観点、つまり「どの程度実際にアメリカが債務不履行に陥る可能性があるのか」という点から見ると、「まだ何とも言えない」というのが正しいように思う。「まさか」という気持ちがある一方で、「今の対立構造から言えば危険性がないとも言えない」というのが正直なところだろう。「アメリカが債務不履行」という現実が生じたときには、想像を絶する混乱が予想されるから世界中の投資家にとって「どのようにその危険性を織り込むのか」は今週の市場関係者にとって最大の関心事項になる。

「17日」というのはアメリカの財務省が、「それ以上は無理」としている限界日時で、アメリカからの報道によるとルー財務長官はこの週末に5本を越えるテレビ番組に出て、「デフォルトのリスク」について語り、返す刀で強硬な姿勢を続ける共和党を切っている。加えて「無条件での交渉再開」を共和党に呼びかけ。アメリカでもっとも重要な経済指標とされる雇用統計も9月分の発表が「あるとしても月末」に伸びる中で、「米政府機能の閉鎖」の影響は徐々に大きくなってきていると言える。

米投資家の不安心理を測るVIX指数（通称・恐怖指数）は、先週一時18台に上昇した。6月下旬以来約3カ月ぶりの高水準。もっとも今回と同様に債務上限の引き上げ協議が難航した2011年の夏には、同指数は40台にまで上昇した。それに比べれば今の水準はまだ低い。今週はこの水準が上がる可能性高い。

-----

今週の主な予定は以下の通り。

- |             |   |
|-------------|---|
| 10月07日（月曜日） | 9月末外貨準備高<br>8月景気動向指数<br>金融経済月報<br>9月携帯電話各社の契約件数<br>ユーロ圏4~6月期GDP確定値<br>APEC首脳会議（オバマ大統領は欠席） |
| 10月08日（火曜日） | 米8月消費者信用残高<br>8月国際収支<br>9月上中旬貿易統計<br>9月景気ウォッチャー調査<br>ブラジル中銀の金融政策決定会合<br>TPP首脳会議           |
| 10月09日（水曜日） | 金融政策決定会合の議事要旨<br>米FOMC議事要旨<br>ブラジル中銀が政策金利を発表<br>東アジアサミット                                  |

10月10日（木曜日）

8月機械受注  
8月第3次産業活動指数  
オーストラリア9月雇用統計  
韓国中銀の金融通貨委員会  
8月産業機械受注額  
9月消費動向調査  
9月中古車登録台数  
英イングランド銀金融政策委員会  
米新規失業保険申請件数  
G20財務相・中央銀行総裁会議  
米9月主要小売業売上高

10月11日（金曜日）

9月企業物価  
米10月ミシガン大学消費者態度指数速報値  
IMF・世界銀行年次会合

このうちアメリカがらみの統計がどのくらい予定通り発表されるのかは不明だ。民間が調査した統計は出てくるだろうが、政府関係はまず期待できない。

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。雨がちであまり良い週末ではなかった。しかしどこに行っても結構人が出ていた。徐々に寒くはなっていて、人々の衣装も徐々に秋らしくはなっている。先週のハイライトと言え、なんと言っても「遷御の儀」ではなかったでしょうか。式年遷宮のクライマックス。厳かで良かった。それにしても、神職による合図が「カケコー、カケコー、カケコー」というのが笑える。鶏の鳴き声をまねたものだそうです。

それにしても、「遷宮が20年に一度」というのは、抜群のインターバル、抜群の繰り返しですね。建物も、供物も、庭の白い石も、そして人間の気持ちも新鮮さを保てる。そして、いろいろなものを作る技術の世代間伝承も担保される。昔の人は良く考えているな、と思いました。今年が62回目だそうです。20年に一度で62回。江戸時代の回数と今の回数は、それほど変わらない。

それにしても、「お伊勢参り」がいかに江戸時代に人気があったかは、秩父に繋がるどえらい山の中の山梨県川浦温泉に行っても分かる。ここに「お伊勢の宮地蔵(おいせのみやじぞう)」があるのですが、これは江戸時代にお伊勢参りに行く人が安全を祈願した地蔵さんです。ここの温泉は好きでよく行くのですが、地蔵さんの前を通るたびに「こんなところから」と思う。

ところで、テンポ良くポスト・シーズンに入って連日熱戦が展開されているアメリカのプロ野球（MLB）に対して、日本は「消化試合の連続」。この時期、日本のプロ野球ファンは

一端気持ちが悪くなるのではないのでしょうか。スポーツ新聞もくだらない話題ばかり。いったいいつまでこの「消化試合状態」が続くのか。次のコミッショナーにはこの日本のプロ野球界の「シーズン終盤になっての倦怠感」をなくして欲しいな。この時期になるとむしろ「見るべき試合」が少なくなって、ついMLBを見てしまう。けだるい。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com))の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》